

インターバンクの声（2015年2月19日）

ギリシャによる融資延長申請がいつ提出されるのかなど、ユーロ圏の先行きがはっきりして来ないことから、主要通貨全体がレンジ内の取引に留まる時間が長くなっている。そうした中、昨晩は1月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録発表を前に、米国が今年の半ば前後までの利上げを示唆しているはずとの読みからドルが主要通貨に対して買われる傾向にあったが、結果はその読み自体が見事にひっくり返されてしまった。何しろ1月のFOMCでは、利上げまで「忍耐強く」との表現は維持されていたものの、米景気認識が上方修正され、その後の雇用統計でも強い数字が発表されており、次回3月のFOMCでは「忍耐強く」の文言が削除され利上げへの動きがはっきり見えてくるとの認識が強まっていたからだ。複数の委員会メンバーからも盛んに年央頃の利上げに前向きな発言も聞こえていたが、会合では金利を長期にわたって低水準に維持する考え方に傾いていたとのことだ。最近発表されていた経済指標に弱い内容が増え始めていたことを思えば、やはりこうなるのかとの思いもあるが、市場も中期的な相場見通しを修正するまでにはなっていないようだ。足元はユーロの動向に集中することにしよう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。